

東北地方太平洋沖地震に伴う 岩手県岩泉町への職員派遣報告書



(震災前の小本港地区 平成 21 年 7 月 20 日撮影：消防庁提供)



(震災後の小本港地区 平成 23 年 4 月 3 日撮影：消防庁提供)

東京都昭島市

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、日本の観測史上最大のマグニチュード 9.0 を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約 500km、東西約 200km の広範囲に及びました。この地震により、場所によっては波高 10 メートル以上、最大遡上高 40.5m にものぼる大津波が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらす一方で、地震の揺れや液状化現象、地盤沈下、ダムの決壊などによって、北海道・東北・関東の広大な範囲で被害が発生し、福島第一原発の事故も含め各種ライフラインも寸断されました。

本市と水との交流のある岩泉町も同様に小本港地区等では壊滅的な被害を受けたことで、3 月 19 日には本市職員によって救援物資を搬送しました。この救援隊からの報告を 3 月 21 日に受け、同町の被害と避難所住民への対応等の状況把握ができたことと、さらには、3 月 23 日には岩泉町災害対策本部から本市に人的な派遣要請があり、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や新潟県中越沖地震に対しての職員派遣の経験も活かし、3 月 27 日から 4 月 28 日の約 1 ヶ月間、延 20 人の職員を派遣いたしました。

この報告書は、救援物資の搬送から 1 ヶ月間にわたる本市職員の活動と感じたことを記録にしたものであります。本市職員の役割は、微力ではあったとは思いますが、岩泉町に対しての一助になったとすれば派遣された職員はもとより、後方支援での本市職員全員の喜びでもあります。

今回の震災は、東京でも帰宅困難者の対応や計画停電、福島原発による避難民の対応など、まさに地域防災計画の不備を指摘されたとともに、今後の災害への備えの警鐘であるといっても過言ではありません。これからの本市における地域防災計画の見直しを行なっていく段階においては、今回の震災の課題整理は勿論であります。この報告書を通しての経験がその一助になれば幸甚であります。

むすびに、東北地方太平洋沖地震でお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申しあげ、併せて、岩泉町をはじめ被災地の一日も早い復興を重ねてお祈り申しあげます。

平成 23 年 7 月

派遣隊職員一同

目 次

- 1 救援物資派遣隊報告書 1

- 2 職員派遣隊（第1班）報告書 13

- 3 職員派遣隊（第2班）報告書 29

- 4 職員派遣隊（第3班）報告書 45

- 5 職員派遣隊（第4班）報告書 53

- 6 職員派遣隊（第5班）報告書 71

岩泉町長から昭島市への感謝のメッセージ（抜粋）

（平成 23 年 5 月 6 日本市に訪庁）

岩泉町長の伊達勝身でございます。

昭島市の職員の皆様方に一言御礼のご挨拶を申し上げたいと存じます。

まずは、このたびの東日本大震災に際しまして早々に援助物資のご提供を賜り、また、北川市長様をはじめ、多くの市職員の皆様、昭島市民の皆様方から心温まる義援金や多くのご支援を賜りまして誠にありがたく心より御礼申し上げます。特に、3月27日から4月27日までの約1ヶ月間、20人余りにも及ぶ職員の皆様方が本町に派遣をしていただきまして、小本地区の被災現場、あるいは避難所での対応などにつきましても、人的なご支援を賜りました。震災対応に追われ疲労が蓄積をしておりました本町の職員に代わり献身的なご対応をしていただきましたことに対しまして、改めて深く感謝申し上げます。

さて、このたびの東日本大震災によりまして、本町の小本地区は壊滅的な被害を受けました。津波により被災した家屋は202戸余りに上りまして、同時に9人の方々の尊い命が奪われるなど、私どもがかつて経験したことのない大災害となり、未だに200人を超える方々が避難所での不自由な生活を余儀なくされております。このたびの震災は100年に1度、あるいは、1000年に1度の災害とも言われておりますが、私は自然の猛威を前に何ら成す術がなく、自然に対し人間が如何に無力であることを痛切に思い知らされたところでもあります。しかし、震災から50日余りが経過した今、少しずつではありますが、町は落ち着きを取り戻し、また、被災者待望の仮設住宅の建設も順調に進むなど復興に向けて一步一步着実に歩みを進めております。私は多くの被災された方々や志半ばで無念の最後を遂げられた方々の郷土に対する思いを受け継ぎ、希望あふれる未来を一刻も早く築くため全身全霊を持って本町の復興を成し遂げるよう決意を新たにしているところでもございます。

私は、このたびの震災に対し、これまで築いてまいりました昭島市と本町の絆が心強く、本当にありがたいものであることを改めて痛感をいたしたところでもございます。今後におきましても引き続き、お互いの交流と連携を深めさせていただきまして、昭島市と本町の友好関係が更に発展していくことを切に望んでいるところでもございます。今後ともなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、北川市長様をはじめ、昭島市職員の皆様、昭島市民の皆様方からお寄せいただきましたご厚情に対しまして、改めて衷心から御礼申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきますと存じます。

救援物資派遣隊報告書

派遣期間：平成23年3月19日（土）～3月21日（月）



小本川水門に当たった津波（H23.3.11 写真提供：岩泉町）



小本川水門を超える津波（H23.3.11：写真提供 岩泉町）

【派遣職員】

隊長 渡辺 健蔵（都市計画部都市計画課）
隊員 落合 正司（市民部生活コミュニティ課）
隊員 若松 栄（市民部納税課）

3月19日(土)

- 7:45 昭島市役所を出発
- 7:56 八王子インターチェンジより中央自動車道に入る
- 8:49 江北ジャンクションを通過
- 9:09 浦和料金所を通過し、東北自動車道へ入る
東北自動車道は緊急車両のみ通行可能
- 9:14 蓮田サービスエリアにて給油(1回目の給油)
自衛隊、日本赤十字社、福岡市水道局等の車両あり



〈浦和料金所付近〉



〈自衛隊〉



〈日本赤十字社〉



〈給油〉



〈福岡市水道局〉

- 10:14 館林インターチェンジを通過
- 10:40 都賀西方パーキングエリアに入る
- 11:51 那須高原サービスエリアにて昼食
レストラン、食堂、売店等は全て閉まっていた



〈那須高原サービスエリア〉

- 12:40 福島県に入る
路面に起伏やひび割れが増える
また、復旧の後も随所で見られる
補修工事が各所で行われており
車線規制等が行われている



〈東北自動車道〉



〈東北自動車道〉

13:22 安達太良サービスエリアにて給油（2回目の給油）
食堂、売店等は開いているが、冷凍食品は品切れ
緊急車両でない福島ナンバーの男性に話を伺ったところ
「避難地域に居住しているため、東北道に入れた」との談



〈安達太良サービスエリア〉

13:57 福島松川インターチェンジを通過
同インターチェンジは閉鎖されていた

14:34 宮城県白石市周辺を走行中に降雨
雨は 16:45 頃に止む

14:55 宮城県仙台市に入る

15:08 泉パーキングエリアに入る
トイレ断水 ただし、ペットボトルによる水の提供者あり



〈泉パーキングエリア〉

15:46 宮城県大崎市三本木を過ぎた辺りで、進行方向に対し右手側に位置する建物が1棟傾いていたのを目視で確認

15:57 宮城県栗原市に入る

16:20 岩手県一関市に入る

16:53 岩手県北上市から 2km 程手前にて制限速度が 80km/h となる

17:05 岩手県花巻市に入る
高速道路路肩に残雪あり

17:08 再度、降雨

17:16 紫波サービスエリアにて給油（3回目の給油）
レストランは閉店。冷凍食品は品切れ。売店は開いていた
ラーメン、カレー、うどん等一部の食事は販売されていた



〈紫波サービスエリア〉

17:46 盛岡南インターチェンジから東北自動車道を降りる
この時点では高速道路上の電灯は非点灯

18:15 盛岡駅前に到着
家屋倒壊等は見受けられず ガソリンスタンドはほとんど閉店
街灯は 18:00 頃から間引きで点灯。ただし、盛岡駅周辺では全点灯

18:25 盛岡駅周辺を出発
国道 455 号線を通行（車両の通行はあり。所々に残雪あり）

18:30 ファミリーマート盛岡三ツ割店に立ち寄る（閉店準備中）
営業時間は 8:00～18:30。
雑誌や新聞は販売されていたが、食料品やお菓子類はほとんど売り切れ

- 食料品等は、入荷もほとんどなく、たまに入荷すると即時に売り切れるとのこと
 18:35 ガソリンスタンド待ちの列ができています (60~70 台)
 すでに閉店しているため、朝まで待つものと思われる (車中に人影がない車もある)

- 18:50 国道 455 号線を通り、岩泉町へ向かうも、山中で路面凍結の恐れが生じたため盛岡市へ引き返すことを決断

- 19:45 盛岡駅前の宿泊施設に到着
 盛岡駅周辺のコンビニエンスストアを探索したところ、ほとんどが閉店していた



〈コンビニエンスストア〉

3月20日(日)

- 8:08 盛岡市のホテルを出発
 国道 455 号線を通行
 ガソリンスタンド渋滞あり
 500 台以上の車が 2km 以上に亘り並んでいた
 盛岡から 13km との看板地点付近より
 大量の残雪が目立つようになる
 路面に轍や積雪箇所多数。岩洞湖は全面凍結



〈ガソリンスタンド渋滞〉



〈轍 (国道 455 号)〉



〈積雪 (国道 455 号)〉



〈ガソリンスタンド渋滞〉

- 9:11 早坂トンネルを通過

- 9:58 岩泉町役場に到着
 役場 3 階の総務課に岩泉町災害対策本部、役場 2 階に岩泉町災害ボランティアセンターあり



〈岩泉町役場〉



〈岩泉町災害対策本部〉



〈岩泉町災害ボランティアセンター〉

10:10 見舞金及び親書を伊達町長に渡す
地震そのものによる被害は少なく、
ほとんどは津波による被害である
等といった話を伺う



〈見舞金及び親書〉



〈被害状況の確認〉

10:20 龍ちゃんドームに救援物資を搬入
昭島市からの救援物資を全て搬入



〈救援物資搬入〉



〈救援物資搬入〉



〈救援物資搬入〉

11:07 搬入終了

11:14 岩泉町保健センターにて物資を搬入
龍ちゃんドームにて保管されていた物資の一部を搬入
当センターにも備蓄食料等の保管あり
避難所の方々の洗濯場あり



〈物資搬入〉



〈避難者用洗濯所〉



〈避難者用洗濯所〉

11:24 岩泉町保険センターを出発

11:30 岩泉町災害対策本部に戻る
総務課長・三上氏、総務課総務文書室長・田鎖氏と会談
被害状況（堤防の決壊等）の写真や資料を拝見



〈被害状況の資料報告〉

以下聴取概要

- ・小本地区は 150 世帯程あったが、95%程の家屋が倒壊
- ・堤防が決壊し、水門横の松林も消えてしまった
- ・津波の高さは 23m
- ・小本川水門は、高さ 12m、幅 221m 小本川水門に津波が来たのが 15:30 前後
- ・避難民は 350 名程で、ほとんどは小本や小本中野地区の方
- ・岩泉町民としては、9 名の方が亡くなっている
- ・町外で働いていた消防隊員や宮古市田老のコンビニエンスストアでアルバイトをしていた女性等
- ・地震発生から 2 日間程は、停電、断水、都市ガスの停止等があったが、現在は復旧

但し、電話は現在も復旧していない

- ・沿岸部以外ではライフラインを除き大きな被害（家屋倒壊等）はない
ただし、ガソリンや物流に大きな影響が出ている
- ・正確には把握し切れていないが、小本地区 150 世帯、小本中野地区 170 世帯の内、
損壊家屋が 130 棟、浸水家屋が 40 棟
- ・宮古市は壊滅状態
- ・大槌町では、地震の対策会議中に津波に襲われ、町長や職員が流されてしまった
（町長は 3 月 19 日に遺体で発見された）

11:50 町内を庁用車にて視察（三上課長、森田派遣職員と同行）

以下車内での聴取概要

- ・材料が入ってこないため、店の多くは閉店中
- ・ふれあいランド岩泉が自衛隊基地となっている
- ・小本川水門から 2km 程離れた田んぼに
小本川水門付近にあったであろうブイ等が散乱していた
- ・道路に大きな影響はなし
- ・川の増水はなし
- ・鉄道は動いていない



〈小本川水門から 2km 程離れた箇所〉

12:15～13:35 小本川水門付近を視察

- ・橋場副町長が指揮を執られていた
- ・職員等が飲料水と食料を配布している
- ・小本地区では、3 名の方が亡くなった
一人は、一旦山へ逃げたが物を取りに自宅へ戻り、
布団の中に隠れていた老婦
- ・道路の復旧を最優先としている
- ・土手も決壊
- ・500m 以上流された家屋もある
- ・1 階と 2 階が分かれた建物多数
- ・ライフラインは全てアウト
- ・小本小学校の屋内運動場も浸水
現在は備蓄食料や遺失物の保管等がなされている
- ・家屋内を調べ、自分のものでないものがあれば、
それを一旦外に出して集める
- ・爆発防止のため、掘り出した車のガソリンは抜いてある
- ・温泉施設（小本温泉）の外観上は無事であるように見受け
られた
- ・携帯電話は圏外



保育士が、乳幼児を連れ、山に向かって
連れて逃げ全員無事 小本保育園



（小本川水門）



〈飲料水と食料の配布〉





〈津波の影響は受けたが残った小本温泉施設〉



〈岩泉町役場小本支所〉



〈決壊した堤防〉



〈がれきの撤去が始まる〉



〈小本川水門から 500m 以上離れた箇所の水位〉



〈小本小学校銅像跡〉



被災した貴重品等の展示
〈小本小学校屋内運動場〉



〈被災した貴重品等の展示〉



〈つなみ避難場所との看板〉



〈小成地区の墓地〉



〈小成地区〉

13:57~14:15

宮古市田老を視察

- ・ 3月18日（金）18：00から一般車両が入れるようになった
- ・ 津波により、町はほぼ全壊。元々1,800世帯あった
- ・ 自衛隊が復旧作業にあたっているが、まだ何人も瓦礫の下に埋まっている
- ・ 自衛隊が重機により瓦礫を掻き分け、道路を作った
そのため、道路脇は2m程の高さの瓦礫の山となっている
- ・ 野球場は、観客席の一部しか残っていない
- ・ 昭和8年の三陸沖地震による津波被害を受けたことにより、防災には特に力を入れていた地域
高さ10mの防潮堤を二重に作っており、
世界一の防潮堤としてテレビで取上げられたこともある
しかし、防潮堤による安心感があったため、
避難が遅れてしまった
津波発生当時、防潮堤の上で見物をしていた人もいた
- ・ 防潮堤を越えた津波が、山にぶつかり引き返し、
それが再度防潮堤にぶつかり引き返す、
ということが繰り返されたため、甚大な被害となった



〈自衛隊〉



〈観客席の一部しか残っていない野球場〉

14:45 仮設住宅建設予定地を視察（岩手アライ（株）隣接地）



〈仮設住宅建設予定地〉

14:53 ふれあいランド岩泉（自衛隊基地）を視察



〈ふれあいランド駐車場〉



〈自衛隊基地〉



〈岩泉町民会館〉

15:07～15:26

岩泉町民会館を視察

- ・3箇所避難所の内の一つ（他2箇所はホテル）
- ・避難民のほとんどは小本地区の方
- ・日中はそれぞれの地区へ戻り、復旧作業を行っている
そのため、この時間帯に避難所にいる人数は少数であった



〈宿泊部屋〉



〈宿泊部屋〉



〈炊事場〉



〈配給される食事〉



〈避難者リスト〉



15:29

岩泉町災害対策本部に到着

宿泊施設も避難所になっているので、現地では宿泊は難しいので盛岡市内での宿泊とする

- 15:36 岩泉町を出発
道中、降雪あり
閉店後のガソリンスタンドに給油待ちの列ができていたが、
車中に人影はなく、車も歩道に止められていた
- 18:55 盛岡市内の宿泊施設に到着

3月21日（月）

- 8:26 盛岡市のホテルを出発
ガソリンスタンドには長蛇の列ができており、そのほとんどが1km以上続いている

- 8:49 盛岡南インターチェンジから2km程手前で給油（4回目の給油）
（軽油のみ給油可能。給油上限は30ℓであるが、緊急車両は満タンにできる）

- 8:54 ガソリンスタンドを出発

- 8:58 盛岡南インターチェンジより東北自動車道に入る
緊急車両のみ通行可能



〈盛岡南インターチェンジ〉

- 9:14 紫波サービスエリアに入る
護送車が停まっていたが、警察官の移動に使用されているとのこと
被災者救援バス（弘前→仙台）が停車
乗車していた方に伺ったところ、弘前に一時避難していたため、
これから仙台に戻るところであるとのこと



〈被災者救援バス〉

- 9:36 紫波サービスエリアを出発
北上市付近より制限速度 80km/h 規制の表示あり
前沢市付近より制限速度 50km/h 規制の表示あり

- 10:33 宮城県栗原市に入る

- 10:58 長者原サービスエリアに入る
復興支援者に対し、カレーの無料配布あり



〈長者原サービスエリア〉

- 11:11 長者原サービスエリアを出発

12:28 国見サービスエリアに入る
ガソリンスタンドなし



〈国見サービスエリア〉

12:32 国見サービスエリアを出発

12:40 福島県桑折町付近
東北新幹線の送電線の柱が倒れているのを目視で確認



〈柱の倒れた送電線〉

12:46 福島県福島市に入る

13:16 安達太良サービスエリアにて給油（5回目の給油）

13:44 安積パーキングエリアにて昼食
食堂は、種類限定で営業

14:54 栃木県那須町に入る
那須インターチェンジ付近より制限速度 80km/h の表示あり

15:11 黒磯板室パーキングエリアに入る
コンビニエンスストア営業中

16:22 群馬県館林市に入る

16:46 蓮田サービスエリアにて給油（6回目の給油）
（緊急車両優先。緊急車両は給油制限なし）

17:04 浦和料金所を通過

17:09 川口ジャンクションより首都高速道路へ入る

17:38 三鷹料金所を通過

18:26 八王子インターチェンジより中央自動車道を降りる

18:33 昭島市役所へ帰庁

【派遣における所感】

平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、それによる津波が東北3県に押し寄せ、岩手県岩泉町にも被害をもたらした。本市が岩泉町に確認したところ、小本・小成地区が壊滅的なほどの被害を受け、ライフラインも麻痺し、多くの町民が避難所へ避難していることを確認した。すぐに、市でも救援体制を確立し、3月19日(土)から21日(月)に救援物資の搬送する3名の職員として私たちが担うこととなった。

救援物資は、カンパンやアルファ米はもちろん、毛布・おむつなどの生活用品である。

搬送チームの役割は、物資を搬送するだけではなく、現状や今後の対応などの為にも有料道路状況や給油やサービスエリアの状況、連絡(通話)方法なども実体験し、全て報告するといったことも含まれており、その様子をつぶさに観察をした。

3月19日の派遣当日での搬入は、道路の積雪状態から困難であったことから、翌朝に岩泉町に到着した。しかし、町内の被災状況としては、地震による被害はあまり感じられなかったが、役場に赴いたら災害対策本部が設けられており、多くの職員が住民の対応に追われていた。災害対策本部で伊達町長と面会し、親書・見舞金を渡し、発生から当日までの経過報告を受けた後、職員の案内で、津波被害のあった小本・小成地区及び町内の災害現場の視察を行った。報道では目にしていた状況ではあったが、実際に直接、目の当たりにすると、その被害の悲惨さに言葉にならないほどであった。風光明媚な三陸海岸一帯は、その前の状態がわからないほど、跡形も無い状態で、視界に入る物は瓦礫の山ばかりであった。視察を終え岩泉町を後にすることになったが、あの状態から本当に復興できるのか、元の状態に戻るには、何年かかるのかといった不安を抱えての帰庁となった。

本市へ戻って直ぐに視察報告するなかで、岩泉町の業務がストップしているとともに、避難町民の対応などで、職員にかなり疲労が伺えたので、今後の本市の対応策として、物資はもとより、過酷な勤務体制を強いられている職員の救援として、すぐにでも人的援助が必要と思われることを進言し、物資搬送チームの報告とした。

いずれにしても、初期の段階での対応の中、その任務につくことができたことは貴重な体験であり、今後の本市の地域防災計画の見直しに活かしていきたい。

職員派遣隊（第1班）報告書

（派遣期間：平成23年3月27日（日）～4月3日（日））



壊滅的被害のあった岩泉町小本地区集落（H23.3.28）

【派遣職員】

- 隊長 石川 幸雄（都市整備部管理課）
- 隊員 高水 昭利（都市整備部下水道課）
- 隊員 吉田 和史（企画部法務担当）
- 隊員 大澤 正和（総務部情報推進課）

3月27日(日)

7:45 昭島市役所を出発

8:39 江北ジャンクションを通過

8:50 浦和ジャンクションを通過

9:04 蓮田サービスエリアで休憩

9:28 館林インターチェンジを通過

9:48 都賀西方パーキングエリアを通過

10:02 宇都宮インターチェンジを通過

昭島市役所から宇都宮インターチェンジまでは特に混んでいることもなく、道もでこぼこしているところもなく、順調に進んでいる。

10:10 上河内サービスエリアで休憩

上河内のガソリンスタンドは、やや混んではいるが、並べば買える状態。給油量の制限もなし。

10:44 那須高原サービスエリアを通過

10:51 福島県に入る

急に道路にでこぼこが増えた。

11:18 安積パーキングエリアで休憩

ガソリンスタンドは閉鎖されていた。

12:30 国見サービスエリアで給油

給油の列がサービスエリア入り口まで続いていた。給油まで30分以上かかった。

雪が時々舞うことがある。

13:40 宮城県を北上中

これまでに、たくさんのパトカー・救急車・自衛隊とすれ違った。

高速道路沿いに建っている家を見ていると、屋根が破損している家が多く、ビニールシートを被せている家が多く見られた。

14:10 長者原サービスエリア付近

サービスエリア直前の看板に「スタンド閉鎖中」と出ていたが、ガソリンが届く見込みがある



のか、国見サービスエリアと同様高速道路沿いまで給油の列が続いていた。

15:10 前沢サービスエリア付近

地震の影響か、道路沿いに穴が数ヶ所あった。車が走れないほどの大きな穴ではない。

16:10 紫波サービスエリアに到着

給油が2時間待ちだったが、緊急車両ということで、優先的にガソリンを入れることができた。サービスエリアの売店やレストランは通常通り営業していた。

16:20 盛岡南インターチェンジで東北自動車道を降りる

盛岡南インターチェンジ付近にはガソリンスタンドが数ヶ所あったが、どこも営業していなかった。

16:45 国道4号線から国道455線に入る。

17:15 山道を進むと雪が降り始める。さらに所々で路面凍結もあった。



路面が凍結している
(国道455号線)



路面が雪で覆われている
(早坂トンネル前)

18:20 岩泉町役場に到着

橋場副町長より被災状況等の説明をしていただいた。

- 亡くなられた方は9名。
- 被災者は町民会館と龍泉洞温泉ホテルに別れて避難。合わせて250名ほどが避難している。
- 津波は12メートルの堤防を軽々と越えてきた。
- 高台に避難していた町民によると、地震の後海の水が引いて海の底が見えたとのこと。
- 被害が甚大であった小本地区では、ライフラインの復旧ということで、先行して道路を通す作業をしていたが、先日道路は復旧したとのこと。
- 小本地区では行方不明者も0人となったため、重機を使ってのガレキの撤去が進められるようになった。



橋場副町長より被災状況等の説明をうける
(岩泉町役場3階総務課事務室内)

- 被災者は、家やガレキの整理のため、希望者が朝に被災地へバスで向かい、夕方にバスで避難所へ戻ってくる生活をしているとのこと。
- 岩泉乳業は25日（金）より稼働再開した。
- 町役場職員は、被災から休みなく働いていたが、震災直後の混乱状態からは落ち着いてきたので、26日（土）からは当番以外は休みをとれるようになったとのこと。

被災状況等の説明を受けた後、被災者が避難している龍泉洞温泉ホテルで寝泊りをするとのことです。ホテルへ向かう。

- 就寝場所は畳の大広間を区切っていただいた10畳ほどのスペース。
- 食事は被災者と共に炊き出しをいただく。
- 風呂にも入ることができた。
- 洗濯機もあったが、被災者が利用しているため、派遣隊は利用しないことにした。
- 賞味期限が間近となっている菓子パンや菓子を自由に食べられるよう振舞っていた。
- ホテル入り口にはホワイトボードがあり、被災者へのお知らせ等が記載されていた。



「ご自由にどうぞ」と書かれた紙と菓子パン
(ホテルロビー)



ホワイトボードが設置
(ホテル出入り口付近)

夕食後町役場の三上総務課長とホテルロビーで明日の作業について打合せ。

3月28日（月）

小本地区での現場作業の手伝い。

小本地区へ到着後、作業前に被災現場を視察。



被災地住宅街
(小本地区)



被災地住宅街
(小本地区)



被災地住宅街
(小本地区)



被災地住宅街
(小本地区)



被災地住宅街
(小本地区)



防潮堤及び道路が津波で崩れている
(小本地区海岸)



防波堤付近
(小本地区海岸)



テトラポットが散乱している
中には割れているものもある
(小本地区海岸)



電柱が倒れている。右側後方には、
小本中学校が見える。
(小本地区海岸)



小本支所
(小本地区)



小本支所内
壁に泥がついている高さまで
津波が押し寄せた
(小本地区)



被災地住宅街
ライフラインとして道路だけが
整備されている
(小本地区)



地震の瞬間で止まっている時計
(小本小学校体育館)



被災現場の店から持ち出した
食料品等
(小本小学校体育館)

現地視察後、現場作業を手伝う。

2人1組で2組に分かれ、一組は小学校にある体育館の荷物の見張り役、もう一組はガレキの撤去をしている重機のそばにいて、市民が近づいてきたら重機を止める作業であった。

小学校の体育館には、民家やガレキから発見された写真や家財道具などがまとめて置いてあり、町民が自分のものとわかったものを持っていったりまとめたりできるようになっていた。

また、避難所からバスで来ている被災者は、重機でガレキを少しよけては荷物が埋まっているかを確認し、必要なものが出てきたら持ち帰る等の活動をしていた。

3時過ぎに作業は終了し、役場に戻り三上総務課長と明日以降の打合せを行った。

明日の対応は、石川隊長及び高水隊員は、本日と同様小本地区へ出向き、小学校の体育館で町民荷物の見張り及び町民対応を実施することとなった。

吉田隊員は、避難所である龍泉洞温泉ホテルの出入口にて町民の入退管理を行うこととなった。

吉田隊員は、明日に限り日勤から夜勤まで対応する。(夜勤は、夜11時まで出入口で待機し、午後11時の消灯後は裏で仮眠をとり、何かあれば起きて対応した。)

大澤隊員は、避難所である町民会館にて町民の入退管理を行った。

3月29日(火)

派遣隊4名がそれぞれ分かれて作業に入った。

石川隊長及び高水隊員は、昨日と同様小本地区へ出向き、小学校の体育館で町民荷物の見張り及び町民対応。吉田隊員は、避難所である龍泉洞温泉ホテルの出入口にて町民の入退管理し、夜勤まで対応。

大澤隊員は、避難所である町民会館にて町民の入退管理。入退室管理の作業内容としては、被災者の外出や帰宅の確認・支援物資が届いた際の対応・被災者との面会に訪れた方への対応等を行った。



避難所風景
(町民会館)



避難所受付
(町民会館)



避難所受付作業風景
(町民会館)

町民や町役場の職員から聞いた話や、気がついたことを簡単にまとめる。

- 支援物資は、はじめのうちは地元の方々が物資を持って来てくれたものが多かったが、今は各地からの支援物資が行き届いているとのこと。
- 避難している小学生や中学生の担任の先生が来館し、プリント類や宿題を渡していた。
- 避難している子供たちが避難所で何もせず、ごろごろしているままだと精神的にもよくないということで、地元岩泉高校のボランティアに子供たちと町民会館の体育館で遊んでもらうようお願いしたらしく、7名ほどの高校生が町民会館に来た。
- 心のケアを行う団体が来て、お年寄りや若者と話をしていた。

- 新聞社やテレビ局・地元警察も訪れた。
- 被災者の中から災害復旧作業員の募集を開始した。作業員には日当を出すとのこと。

3月30日(水)

昨日と同様派遣隊4名がそれぞれ分かれて作業に入った。

石川隊長は、昨日と同様小本地区へ出向き、小学校の体育館で町民荷物の見張り及び町民対応。

高水隊員は、龍泉洞温泉ホテルの出入口にて町民の入退管理。吉田隊員は、夜勤明けのため日中は休息し、午後5時30分より高水隊員と交代で夜勤に入る。

大澤隊員は、昨日と同様町民会館にて町民の入退管理。昼前に各避難所に避難者へ配る下着・衣類・長靴等の支援物資が届いた。被災者に事前に必要な物資のアンケートをとっていたらしく、被災者の世帯ごとにダンボールにまとまって届いた。



避難所受付
(龍泉洞温泉ホテル)



避難所受付
(龍泉洞温泉ホテル)

3月31日(木)

昨日と同様派遣隊4名がそれぞれ分かれて作業に入った。

作業内容についても昨日と同様。

石川隊長は、現場からガレキ撤去中に散弾銃が出てきたので、とりあえず警察に届けた。小本地区の方で狩猟をする方がいるとのこと。

高水隊員からは避難民で体調を崩す方が出ているという報告があった。

大澤隊員は、町民会館そばに救援物資を保管する場所(保健センター)があり、そこに届いた物資を運んだ際に現場で仕分け作業をしている方と話をした。今足りない物資は、長期保存できる食料、調味料、夏に着るTシャツなどの衣料品が必要であるとのこと。



支援物資
「ダンボール箱にエールの言葉
(保険センター)



支援物資
(保険センター)



支援物資仕分け
(保険センター)

夕食後、町役場の三上総務課長と打ち合わせをし、第2班からの作業は、町民会館と龍泉洞温泉ホテルで避難場所の見張り及び町民対応を岩泉町の職員と共に昼間と夜間それぞれ1名ずつ対応することになった。また、明日は本市から派遣されている職員の森田さんと共に、田老地区や山田町に視察に行く。

4月1日(金)

夜勤明けの吉田隊員以外の3人と本市から派遣されている職員の森田さんの4人で朝から宮古市・山田町に現地視察へ行った。

8:30 町役場を出発。

9:00 小本地区に到着。水門の上等を視察。水門の上には津波で打ち上げられたと思う船があり、津波は水門の高さである12メートルを越えたことが容易にわかるものであった。



船が打ち上げられている
(小本漁港)



水門
震災時、門を閉めようとしたが、
停電のため閉まらなかったとの
こと。

(小本漁港)



左の写真に写っている水門の上
高さ12メートルだが、船が打ち
上げられていた。津波の高さを物
語っている。

(小本漁港)



水門の上
津波により階段が壊れている
(小本漁港)



白く見えるのは、雪ではなく消毒
のためにまかれた消石灰
(小本漁港)

9:30 宮古市田老地区へ向かう途中にあるガソリンスタンドは営業していた。

9:50 田老地区被災地到着。自衛隊がかなり入っていた。国道だけガレキを除去して通れるようにしている状態。国道そばに遺体安置所あり、被災者の姿もあった。



壊滅的なコンビニエンスストア店でアルバイトをしていた岩泉町の28歳の女性が遺体で発見された。

(田老地区)



海岸沿いの通り
道路だけは通っている

(田老地区)



山側までガレキが流されている

(田老地区)



甚大な被害状況
(防潮堤から宮古方面を見た田老地区)



船が逆さまになっている

(田老地区)



自衛隊が車の誘導を行っている

(田老地区)

10:20 宮古漁港到着。ガレキが山のようになられていた。



ガレキの山
(宮古漁港)



ガレキの山
(宮古漁港)



宮古漁港の製氷工場
工場の奥は左の写真のようなガレキの山

(宮古漁港)

10：30 宮古市役所に到着。庁舎が海沿いにあるので、1階部分が壊滅的状態。総合窓口を2階に設けていたが、住民票等を発行する人で長蛇の列ができていた。
 庁舎には電気もきていたが、周りの信号は消えており、警官が交通整理をしていた。



信号が消えているため警官が交通整理をしていた
 (宮古市役所付近)



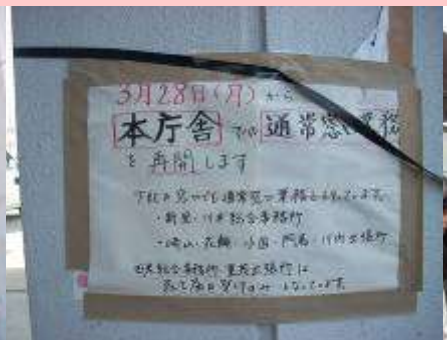
橋に船が突き刺さっている
 (宮古市役所付近)



宮古市役所庁舎
 庁舎玄関に船がさかさまになって流れ着いている



1階部分は危険なので、バリケードで入れないようにしている
 (宮古市役所)



本庁舎の通常業務再開のお知らせ
 (宮古市役所)



総合窓口には長蛇の列
 (宮古市役所付近)

10：45 宮古市街地到着。電気は来ていない模様で、田老地区と同様、道はキレイになっていた。
 11：05 山田町へ入る。

11：20 山田町の被害が大きい通りに入ると、元々町があったとは思えないほどの甚大な被害状況に直視できないほどであった。火事も起きていたようで、焦げた家もあった。匂いも独特なものであった。自衛隊がかなり入っていたが、大変な作業であると感じた。



漁師が使用する網のようなものがたくさん打ち上げられていた
 (山田町)



写真のような風景がしばらく続く
 (山田町)



ガレキを運んでいるトラック
 粉塵が舞っている
 (山田町)

11：45 山田町の老人ホームがあり、たまたま居合わせた老人ホームの職員の方と話げできた。その方によると、この老人ホーム辺りにおいて、町にある2つの湾からの津波が重なりあう場所となり、老人ホームの屋根の上や2階部分にたくさんの車に乗ってしまったということをお聞いた。未だに30名ほど行方不明とのこと。



老人ホーム外観
屋根に車に乗っているのがわかる
(山田町)



老人ホーム内は薄暗い
(山田町)



車が建物に突っ込んでいる
(山田町)

11：53 山田町役場に到着。役場は高台にあったため、被害を受けていなかった。安否を確認しにきた町民がメッセージを残す「伝言板」が設置されていた。



道路は通っているが、町は壊滅状態で電線がからまっている
(山田町役場付近)



鉄筋の建物が崩れずに残っていたが、焦げており、火事が起きたことがわかる
(山田町役場付近)



悲惨な状況
(山田町役場付近)



山田町役場出入口
(山田町役場)



町民課を訪れる町民
非常用袋を背負っている
(山田町役場内)



伝言板
(山田町役場内)

13：40 浄土ヶ浜到着。海岸沿いのレストハウスは壊滅状態。アスファルトの道も剥がれて岩がむき出しになっていた。



海岸に流れ着いた木材
(浄土ヶ浜)



ガレキを撤去している
(浄土ヶ浜)



レストハウスのガラスはすべて割れている
(浄土ヶ浜)

15：10 龍泉洞に到着。水が濁っている状態を見ることはなかなかできないとのことで、視察をさせていただいた。普段は水の底まで見えるとのことだったが、たしかに濁っており、湖底を見ることはできなかった。



龍泉洞内を歩く
(龍泉洞内)



濁っていて底が見えない
(龍泉洞内)

15：50 龍ちゃんドーム到着。支援物資の現状を視察。かなりの量の支援物資があった。食料品、生活用品、衣類など、種類別にまとめて置いてあった。衣類は、サイズや男女子供別で置いてあった。本市からの支援物資のダンボールも見受けられた。



岩泉町屋内多目的運動場
通称「龍ちゃんドーム」
(龍ちゃんドーム出入口)



支援物資が数多く置いてある
(龍ちゃんドーム内)



支援物資が数多く置いてある
(龍ちゃんドーム内)



支援物資が数多く置いてある
(龍ちゃんドーム内)

本市からの支援物資が入ったダンボールも見受けられた
(龍ちゃんドーム内)

本市からの支援物資が入ったダンボールも見受けられた
(龍ちゃんドーム内)

龍ちゃんドーム視察後町役場へ戻り、中居総務課長・三上教育長と第2班の到着時間等について打ち合わせ。明日は各々31日と同様の作業に就く予定。

4月2日(土)

石川隊長は、小本地区以北の現場視察へ本市から派遣されている職員の森田さんで行った。

高水隊員は、龍泉洞温泉ホテルの出入口にて町民の入退管理を行った。

吉田隊員は、夜勤明けのため日中は休息。

大澤隊員は、町民会館にて町民の入退管理を行った。



瓦礫が散乱している



窓が割れた宿泊施設

夕方に第2班と石川隊長が合流し、町役場や宿泊先の龍泉洞温泉ホテル、町民会館等をまわり、町役場にて引継後、早坂トンネル付近による積雪による国道の状況や東北自動車道の余震等による影響等を考慮して、第1班隊は盛岡へ移動し、盛岡市内のホテルで宿泊。

4月3日(日)

9:30 盛岡南インターチェンジから東北自動車道に入る

10:03 紫波サービスエリアで休憩

12:35 鶴巣サービスエリアで休憩
高速道路が若干でこぼこしている。

13:40 国見サービスエリアで休憩

15:08 那須高原サービスエリアで休憩
高速道路は下りよりも上りのほうが、かなり道がでこぼこしている。

15:59 宇都宮インターチェンジを通過

16:26 佐野サービスエリアで休憩

17:32 川口ジャンクションを通過

18:05 首都高が非常に混んでいる

19:20 帰宅

以上

【派遣における所感】

3月11日に発生したM9.0の大地震及び巨大津波によって、東北から関東の沿岸部は甚大な被害を被った。日々深刻化していく被害状況をテレビで見ているうちに、自分たちも被災地復興のために何か協力できることがあれば行動していきたいと考えていた。そういった中で今回の復興支援派遣隊に志願し、派遣隊として、現地の方々を少しでも支援できるよう全力で活動したいという思いや、被災状況の現実を目で見て体で感じたものを持ち帰り、本市でもいつ起こるかわからない天災事変に、どのように対応・対処していくべきなのかということも少しでも学べたらなという思いを持ちました。さらに、多くの方々に体験談を話すことで、防災対策への関心を高めてもらえたらという思いなど、様々な思いを持ちつつ被災地へ向かった。実際、被災地に立ったとき、私たちは「ため息しか出ない」としか言いようがなかった。とにかく衝撃だった。

避難所運営はもとより、一日も早い復旧作業が行なわれている中、第1班は、ほかの班とは異なり避難所運営とは別に、小雪舞う中、小本地区での現場作業にも立会い、町民の安全確保を図った。体に凍みる寒さであったが、この寒さも暖をとればなくなるが、町民に与えた心の傷はなくなることはないと思うと、そんなことも忘れて仕事に従事することができた。被災現場から見つかった写真等の見張り役だったが、その写真を見に来る被災者の後姿を見ると、言葉では言い表すことができないような、何とも言えない気持ちになった。

避難所運営においては、被災者の方々と話をする機会が多くあったが、被災者とは思えないほど明るい方々ばかりだった。被災者の本当の思いはわからないが、私たちは胸が苦しくなる思いだった。

こうした体験を通して、派遣隊としての所感を書くにあたり、私たちなりに「気持ち」や「思い」をまとめてみたが、何とも抽象的な表現で終わってしまった。これは、私たちの中でその「気持ち」や「思い」が「言葉」で言い尽くせていないのは、私たちの心の整理ができていないということと表現の乏しさであると改めて感じた。

いずれにしても、これほどの体験・経験をさせていただいたことは、今後の本市における防災計画の見直しにも役立てていきたいし、復興支援に携わる機会があれば、今後も積極的に機会を捉える中で参加してまいりたい。

職員派遣隊（第2班）報告書

（派遣期間：平成23年4月2日（土）～4月9日（土））



龍ちゃんドーム近くの岩泉仮設住宅（39戸）の基礎工事（H23.4.6）



岩手アライ（株）隣接の小本仮設住宅（84戸）の基礎工事（H23.4.6）

【派遣職員】

- 隊長 遠藤 弘文（市民会館・公民館）
- 隊員 加藤 弘（学校教育部学校給食課）
- 隊員 井上 健二（学校教育部学校給食課）
- 隊員 村山 政弘（子ども家庭部子ども育成課）

4月2日(土)

- 6 : 50 昭島市役所を出発。
- 7 : 00 八王子 I C より中央自動車道に入る。
- 7 : 55 浦和料金所を通過し、東北自動車道に入る。交通量はやや多い。
- 9 : 05 大谷 P A で休憩。ガソリンスタンドは渋滞。
- 9 : 50 那須 S A 通過。ガソリンスタンドは相変わらず渋滞。
福島県に入ると路面に段差が目立つ。左右民家の瓦が落下したらしくブルーシートが架かっていた。
- 10 : 15 安積 P A を通過。下りのガソリンスタンドは閉店。
- 10 : 35 安達太良 S A にてトイレ休憩。
ガソリンスタンド営業中。30分待ち。路面は波打っている。80キロ規制。上りも下りも交通量は多い。
- 10 : 50 安達太良 S A 出発。
- 12 : 45 長者原 S A にて昼食。店内は混雑している。昼食時に地震あり。スタンド 20分待ち。
- 15 : 00 盛岡南 I C 到着。国道に出てすぐに給油。待つことなく給油ができた。
その後、ローソンで買い物をしたが、カップ麺、パン、弁当は、ほとんど売り切れ状態。国道 455 線の道路状況は、積雪個所はなかった。しかし、道路以外は、大量の積雪が目立つ。
- 17 : 05 岩泉役場に到着。



〈宿泊先 温泉ホテルにて〉



〈宿泊場所 温泉ホテル〉

19 : 00 夜勤の任務に就く

(仕事内容は被災者が宿泊している温泉ホテルと町民会館での入退出の管理で岩泉町の職員と行う。)



〈出入り口での入退出管理 温泉ホテルにて〉

4月3日(日)

8 : 20 前日(4月2日)の夜勤班から仕事を引き継ぐ

避難者の中には、昼間、被災地小本地区に行かれる方や仕事に行かれる方などがいて、交通手段としては、町で用意したバスやマイカーで行かれる方がいる。



〈町役場のすぐ近くの町民会館〉



〈町民会館での入退出管理〉



〈ボランティアによる夕食の準備(町民会館実習室)〉



〈災害時の炊飯に欠かせない釜での炊き出し〉



17:15 町民会館に夕食のおかずを取りに行く。

*食事は、温泉ホテルは従業員、町民会館は、ボランティアの方が朝食と夕食を作っている。昼食は、両方とも支援物資のパンと飲み物たまにバナナがでた。

17:40 夜勤班に引き継ぐ

*温泉ホテルに個人及び映画会社からの支援物資が来る。

【個人】野菜、衣類 【映画会社】野菜の種、植木（植樹用）

4月4日（月）

8:20 夜勤班から引き継ぐ

夜勤班は、午後11時過ぎには仮眠できる。



〈夜勤班の仮眠場所 温泉ホテルにて〉

〈入退出管理事務 町民会館にて〉

*町民会館では、施設内に教育委員会があり教育長室にて寝袋で仮眠。

16:00 昭島市民から頂いた義援金を岩泉町長に渡す。



〈町長室にて〉

*その後、中居総務課長から被災地の状況及びお礼の言葉をいただく。

17:30 夜勤班、任務に就く

4月5日(火)

8:20 町民会館及び温泉ホテルにて被災者の入退出管理を行う。



〈町民会館での様子〉



〈温泉ホテルで受付け〉



〈町民会館の掲示板〉



〈温泉ホテルの掲示板〉



〈被災者用の洗濯機3台（温泉ホテル）〉

* 町民会館では、近くの保健センターに洗濯機6台がある

4月6日(水)

*本日は、被災地の岩泉町の小本地区、宮古市田老地区、宮古市等を視察に行く。
本市からの派遣職員の森田さんに案内をしてもらう。

9:00 温泉ホテル発。

9:20 小本地区到着。



〈陸に打ち上げられた船〉



〈写真の奥が海〉

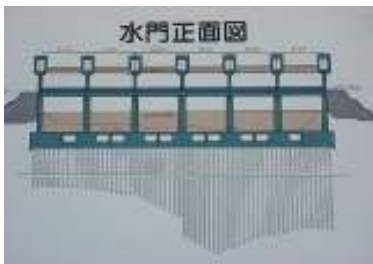


〈波に流された瓦礫〉



〈13.3mの水門〉

* この高さを超えてきた波。おそらく14~15mあったのではないかと推測されています。



〈水門正面図〉



〈小本地区の様子〉

* 瓦礫が撤去されているが、写真の奥は、傾いた家、瓦礫があったと報告されています。

10:20 宮古市田老地区到着。

* 自衛隊による活動があちこちで行われている。



〈田老地区を流れる川〉



〈瓦礫の山と自衛隊による交通整理〉



〈自衛隊による瓦礫の撤去〉



〈無残に流された車：写真中央〉



〈崩壊した町〉



〈自衛隊による活動：写真中央〉

流された橋



〈波にのまれた田老地区〉



〈流された橋〉

* 田老地区は、ほとんど壊滅状態であった。高台に数件ある家が残っている程度である。国道は、瓦礫が撤去され通行可能であった。

11:00 宮古市内に到着。



〈陸地まで流された船〉



〈電力の復旧作業〉

* あちこちでこういった光景が見受けられた。



〈トラックの運搬により運び出された瓦礫：写真奥〉 〈宮古市役所出入り口付近〉



歩道橋

* 左方の歩道橋まで海水が来た痕跡がうかがえた。



〈1階が浸水した宮古市役所〉



〈流された書類〉



〈被災者の避難場所となっている宮古小学校体育館〉



〈体育館出入口〉

* 消毒スプレーが設置されてる。 昼食の準備がされていた。



〈掲示板〉

* 運動不足解消のため掲示されていた。



〈体育館内の様子〉

* 高齢者が多く感じられた。
* 広い館内にはストーブがいくつか設置されているがまかないきれぬほどではない。
* 自衛隊が小学校校庭に駐屯し、炊き出しを行っている。



〈自衛隊の炊き出し〉



〈小学校に駐屯する自衛隊〉



13 : 30 浄土ヶ浜に到着。宮古の代表的な景勝地と知られている。



〈浄土ヶ浜の写真〉

《浄土ヶ浜レストハウス》



〈波によって浸食された道路〉



* 2階まで波が来た様子が見える。

14 : 20 グリンピア田老（保養施設）に到着。



* 家族単位で段ボールにより仕切られている。

* 体育館と宿泊施設合わせて 800 名収容出来る施設。現在 400 名の方が宿泊している。



〈地元の中学生による合唱祭：写真奥〉



〈体育館に設置されている固定電話〉



〈女子更衣室として使用されているテント〉



〈中学生の応援メッセージ〉



グリンピアのグラウンドに建設中の仮設住宅。

15:00 小本地区に再び到着。建設中の仮設住宅。4月いっぱいでの完成予定。(84棟)

*地盤(土地)に採石がもともとあったのでコンクリでの基礎を作っている。グリンピアのような土地が土の場合は、杭を打ち基礎を作るようである。



〈小本地区の仮設住宅(建設中)〉

15:15 道の駅「いわいずみ」にて休憩。地震の影響で観光客も少ないようだ。



15 : 40 龍泉洞に到着し、施設内を見学した。



〈LEDによる照明〉

16 : 35 龍ちゃんドームに到着。(支援物資保管場所)



〈支援物資：衣類等〉



〈仕分けをするボランティア〉



〈支援物資：米〉



〈本市からの支援物資〉

* 食料から衣類、日用品、発電機等様々なものが届けられている。



〈龍ちゃんドーム隣の仮設住宅建設現場 約50棟〉

17 : 40 温泉ホテルに到着。

4月7日（木）

- 8：20 町民会館及び温泉ホテルにて被災者の入退出管理を行う。
午前中は、町民会館にて司法書士が来て相談会が行われていた。
また、午後には、役場の職員が来て家の解体についての相談会も行われた。



〈龍ちゃんドームから運ばれてくる支援物資（食料）〉

- 17：20 夜勤班に引き継ぐ
- 23：30 宮城県沖を震源地とした地震発生。岩手県は、震度5強とのこと。
その後、停電となる。日勤班も夜勤班に合流。夜勤班の岩泉職員は、水道課に勤務しており、小本地区に直ちに向かった。代わりの職員も温泉ホテルに到着。職員への対応の早さに驚いた。被災者は、数人がホテルロビーに出てきただけであった。しかし、皆さん不安でいっぱいだったようである。その後は、余震もなく、午前2時ごろに就寝した。

4月8日（金）

- 8：20 町民会館及び温泉ホテルにて被災者の入退出管理を行う。依然、停電のままある。また、昨夜の地震の影響で、東北自動車道の古川IC～平泉前沢IC（上下）、東北自動車道 平泉前沢IC～水沢IC（下）が、通行止めとなった。
本日、午後予定されていた、町民会館での音楽祭は予定どおり行われた。町のバスにての送迎。町民会館の大広間では避難者の世帯ごとにコンパネで仕切りを作製。



（コンパネで間仕切り作製）



〈自衛隊の音楽祭が行われる町民会館ホール〉

- 14：20 電気が復旧される。ホテルロビーにて拍手が沸きあがる。日常、電気が普通に使えることの有難さを知る。

- 17 : 15 第 3 班を道の駅「三田貝分校」まで迎えに行く。
- 17 : 50 第 3 班と合流。
- 18 : 30 岩泉役場に到着。中居総務課長、三上教育長から第 3 班隊は、被災状況等の説明を受ける。その後、引き継ぎをした。
- 19 : 30 第 1 班隊と同様に、早坂トンネル付近の積雪による国道の状況や東北自動車道の余震等による影響等を考慮して、第 2 班隊も盛岡へ移動し、盛岡市内のホテルで宿泊。
- 21 : 30 盛岡市到着。

4 月 9 日(土)

- 9 : 00 盛岡市出発。
- 9 : 30 盛岡南インターチェンジ手前で給油をし、東北自動車道に入る。
- 10 : 10 昨夜の地震の影響で、水沢付近より渋滞に入る。渋滞表示 4 km。
- 10 : 50 高速の渋滞を通過し、水沢インターチェンジから国道 4 号線に入る。平泉前沢まで約 20 km 程である。国道も橋の繋ぎ目に段差が見受けられる。また、民家の瓦屋根が落下し、ビニールシートが掛っている光景も見受けられた。
- 12 : 50 平泉前沢インターチェンジから東北自動車道に入る。高速道は、順調に流れる。
- 13 : 10 高速道路の路面状況が下りより悪く感じる。かなり波打って特に橋とのつなぎ目は、段差が激しい。
- 13 : 30 長者原 S A にて休憩を兼ねて昼食をする予定であったが、昨夜の地震の影響で、先程営業再開したばかりとのことで食事は出来ず、再び高速道に戻る。
- 14 : 30 国見 S A で昼食。店内は、混雑している。

- 15 : 00 国見 S A を出発。
- 15 : 40 郡山付近を通過。行き同様に道は波打っている。
- 16 : 50 宇都宮インターチェンジを通過。
- 18 : 40 浦和料金所を通過。首都高速道路に入る。
- 19 : 30 市役所に到着

【派遣における所感】

私たちが今回の派遣隊に参加し、被災地を訪れて強く感じたことは、津波の怖さや自然の強さでした。壊滅的被害を受けた町の姿を目の当たりにして、戦争映画のシーンを見ているようで言葉も出すことができず、普段、私たちに癒しを与えてくれる自然が、あの大きなセメントの固まり「テトラポット」や防潮堤が崩壊されるなど自然の恐ろしさと人間の無力さを感じました。

その一方で、全国から送られてくる支援物資の多さに驚き、人の暖かさと絆を感じる事ができ、それが暗い出来事の中での明るいニュースでした。また、寡黙にがんばっている被災者の方々の姿を見ると「東北人の根性」を見た思いでもありましたが、被災者の方々から、昼間は元気に振舞っていても、夜になるとまだまだ不安や苦しさが出てくるというお話を聞いたときに、普通に生活できることのありがたさを実感いたしました。

テレビで被災地の様子がたびたび流れていますが、果たして自分がこのような状況になった時にどうなってしまうのだろう、今、私に出来ることは何だろうと考えさせられます。これといった答えは出ませんが、普段の生活の中で自分にできることを実践していき、またこう言った機会があれば参加し少しでも力になればと思います。

結びに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

職員派遣隊（第3班）報告書

（派遣期間：平成23年4月8日（金）～4月15日（金））



龍ちゃんドーム近くの岩泉団地（仮設住宅）39戸建設中（H23.4.13）



岩手アライ（株）隣接の小本団地（仮設住宅）84戸建設中（H23.4.13）

【派遣職員】

隊長 鈴木 隆（市民部課税課）
隊員 山崎 忠（都市計画部区画整理課）
隊員 星野 敏明（生涯学習部スポーツ振興課）
隊員 大沼 晴之（環境部環境課）

4月8日(金)

- 6:55 昭島市役所を出発
- 7:05 八王子 I C より中央自動車道に入る
- 7:58 浦和料金所を通過し、東北自動車道へ入る
- 9:32 那須高原 S A にて給油 (1 回目の給油)
- 10:00 安積周辺を通過。近隣にある民家の屋根にところどころブルーシートが掛けられていた。
- 11:36 鶴巣 P A に入る。
- 10:58 古川～水沢が 4 月 7 日の余震により通行止め。古川 I C より一般道を降り、国道 4 号へ。
- 13:30 宮城県内国道 4 号沿いの飲食店が停電のため弁当販売のみ行っていた。走行中の車内にて昼食にする。
- 14:19 栗原市役所前通過
周辺では斜面崩落により屋根つきのバス停が倒壊。納屋が倒壊。市内のパチンコ店の天井が崩落。中古車店の屋根が崩落し、車両が全損している光景が確認できた。
- 15:24 水沢 I C まであと 5 k m 付近
昨日の余震による停電で信号機が消え、ガソリンスタンドも営業停止をしていた。
- 15:46 水沢 I C より東北道へ乗る。
- 16:23 盛岡南 I C から東北自動車道を降りる。
- 16:46 盛岡市内にて給油 (2 回目の給油)
- 17:20 岩洞湖脇を通過路肩には雪が残り湖面は氷が張っていた。路面がぬれていたため、夜間は凍結の恐れがあった。
- 18:45 岩泉町役場に到着
副町長に着任の挨拶をする
- 19:31 龍泉洞温泉ホテル到着
第 2 班から引継ぎを受け、宿直当番は勤務に就く。



着任時集合写真



町民会館の宿直風景

4月9日(土)

当番	配置	内容
日勤	町民会館 山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社より空気清浄機が各避難所に二台ずつ寄付。 ・災害支援ボランティアによるトン汁の炊き出しがあった。 ・不審者情報(NPO 法人ライフボードプロジェクト)があった。 主な内容は避難所の住民名簿のコピーを要求してくる。 再度来訪した場合、警察に通報することとの引継ぎ。 <ul style="list-style-type: none"> ・龍泉洞ホテルの大部屋を仕切りで分けた。(下写真図参照)
	ホテル 鈴木	
宿直	町民会館 星野	
	ホテル 大沼	



9日の町民会館 日直



仕切られた大広間



3月まで本市に派遣された
小野寺さんと当番



小野寺さんと本市職員



町民会館 宿直

4月10日(日)

当番	配置	内容
日勤	町民会館 山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・犠牲者合同お別れ会が 11時から町民会館で開催 被害にあった9名に出席した 300名の町民が哀悼の意を表していた。
	ホテル 鈴木	
宿直	町民会館 星野	
	ホテル 大沼	

4月11日(月)

当番	配置	内容
日勤	町民会館 山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、Docomoの電波状況が悪く避難所内にも若干の混乱あり。 ・14:46、1分間の黙祷後「がんばろう！岩手」宣言 ・町民会館では午後2時から散髪のボランティア ・両避難所で心のケアチームによる健康相談が開かれる。 ・17:15に福島県浜通りにて震度6弱の余震が起きたものの岩泉では震度が2でほとんど揺れを感じなかった。
	ホテル 鈴木	
宿直	町民会館 星野	
	ホテル 大沼	

4月12日(火)

当番	配 置	内 容
日勤	町民会館 山崎	<ul style="list-style-type: none"> 被災者のための相談窓口案内(ガイドブック)配布 避難所用自転車2台及び空気入れ1台届く ボランティア「元気隊」によるお話と体操 NTTドコモによるフォトパネル(メッセージ用)設置 役場森田さん来訪 明日の日程調整について 翌日から町民会館のシフトが替わるため、実施要領が届く。
	ホテル 鈴木	
宿直	町民会館 星野	
	ホテル 大沼	

4月13日(水)

8:40 津波被災地現状確認 出発

8:52 ふれあいランド通過
バンガローが避難所となっている。

9:04 小本市街
地面が白いのは消毒用の石灰を散布したからで津波の潮によるものではない。
反面、まだ海まで数キロある地点まで津波がやってきているという事実を確認できる。



小本地区



歪んだ非常階段手すり



水門の上に打ち揚げられた船

9:09 小本水門
東洋一の高さを誇る水門であったが水門の上にまでさっば船が打ち上げられ、非常階段が破壊されていることを確認できる。

9:40 小本小学校体育館
床上浸水した小本小学校の体育館が拾得物置き場となっている。現在は所有者が判るものも多いが、所有者が避難所にいるため受け取りに来ることができないものも多い。



小本小学校体育館

9:55 宮古市に入る。

- 10:15 田老地区。岩泉町民が被災当時アルバイトしていたコンビニを視察。津波警報が出てから買い出しや、見物に来る客によって避難が遅れてしまったとのこと。
また、右下の写真は田老駅からの風景だが右手奥に見える建造物の残骸は野球グラウンドのスタジアム席で、グラウンドが津波で跡形も残っていないことがわかる。



被災したコンビニ



堤防を挟んだ反対側



田老駅から

- 11:40 鉾ヶ崎港視察
港の施設と同じ高さまで瓦礫が積み上げられ、粉じんが巻き上がっていた。
港の建設物は1階部分が壊滅的で、津波によって車が屋根に嵌り、売り物にならなくなった魚が処分されていた。



鉾ヶ崎港



港に積まれた瓦礫

- 12:30 山田町視察
山田町では津波直後火災が起きたため、民間委託の重機やボランティアが入ることができず、瓦礫の除去がその他の地域と比べても進展しない。まるで空襲の後のような廃墟がただ広がっていた。



- 13:00 大きな被害が出た宮古市も線路を挟み西側へ行くと津波の被害がなく、飲食店等も通常に営業していた。

- 13:40 浄土ヶ浜視察
浄土ヶ浜は岩礁が防波堤代わりになったのか、あまり奥まで津波が届くことはないようであった。
しかし、海岸にあったレストハウスは2階まで津波による被害が出ていた。



天然の堤防となった浄土ヶ浜



被災した浄土ヶ浜レストハウス

15:00 小本地域の仮設住宅視察

大半の仮設住宅は外側部分も終わり、内装や生活用品を準備するために時間を要するものの、5月上旬から入居が可能になるとのこと。



仮設住宅

15:20 龍泉洞視察

総工事費1億円以上をかけて改修工事を行い、平成23年3月19日(土)にリニューアルオープンをする予定だったが震災により、水が白濁してしまいオープンまで1か月以上延期となってしまった。また、5月になると昨年の大雪の雪解け水により通行ができなくなるほど増水するのでそれが落ち着くまでオープンは見送る必要があるとのこと。

16:20 龍ちゃんドーム視察

龍ちゃんドームには岩泉町用の支援物資が分類されていた。水、食料品、衣服、生活雑貨などは十分な量が確保されているが、避難所にいない被災者に配ってしまうと、避難所から出ていく人の分が足りなくなってしまうため、現状では必要最低限の配布のみを行っているとのこと。



龍ちゃんドーム内部

16:45 龍ちゃんドーム脇および岩泉海洋センター脇仮設住宅建設現場視察

龍ちゃんドーム脇に建設中の国による仮設住宅と岩泉海洋センター脇にある仮設住宅の建設予定地を視察した。ドーム脇の仮設住宅は5月下旬に入居が開始できる予定。ただし、小本からはだいぶ離れるため漁師等のように生活基盤が小本にある被災者からは敬遠されているとのこと。また、海洋センター脇の仮設住宅に関しては、現在整地が終わったばかりで、まだ入居の予定は立っていないとのこと。



龍ちゃんドーム脇仮設住宅



海洋センター脇仮設住宅予定地

4月14日(木)

町民会館のシフトが替わり、本市職員の1人体制となり、夜勤は22:00までとなった。

当番	配 置	内 容
調整	鈴木・山崎	第4班到着後、岩泉町役場にてあいさつ及び引継ぎ。
日勤	町民会館 山崎	勤務シフトに変更あり、日勤は8時～17時まで
日勤	町民会館 星野	泊りが無くなり夜勤は17時～22時まで本市職員による1人体制となった。
受付	ホテル鈴木・大沼	勤務体制に変更なし 日勤～交代まで
当日の内容		・仮設住宅の申し込み及びアンケートが配布された。締切りは4月22日まで。 ・町民会館で入学式が執り行われる。

- 8:00 上記のシフトにて当番開始
- 12:30 龍泉洞ホテルと町民会館の担当が交代
- 19:15 岩泉町役場に第4班が到着し、引継ぎ開始
町民会館にて夜勤担当交代
- 20:15 龍泉洞ホテル宿直担当と交代

4月15日(金)

- 8:00 龍泉洞ホテルを出発
携行缶にて給油 (3回目の給油)
- 9:25 平泉通過
路面に大きなうねりがあり白線なども歪んでいた。
- 11:45 安達太良SAにて休憩
安達太良SAにて朝食および給油 (4回目の給油)
- 12:40 矢吹町通過
- 13:27 上河内PAにて休憩
- 14:11 館林市通過
- 15:30 八王子ICを降りて国道16号へ
- 15:50 昭島市内にて給油 (5回目の給油)
- 16:00 昭島市役所へ帰庁

【派遣における所感】

災害支援には様々なものがあり、義援金や物資支援等の間接的なものも非常に大切ですが、現地を自らの目を見て、現地の声に自分たちの手で直接応えられるような支援を行いたいと志願いたしました。

派遣された岩泉町では、事前に想像していた、現場で瓦礫を撤去する等の現場作業ではなく、避難所での避難者管理を行う事務的な業務に従事することとなりました。

事務的な支援とはなりましたが、自らも被災されて疲労がピークを迎えていた岩泉町役場の職員の方より、「職員の負担が減るので大変助かる」との感謝の言葉もいただくこともできました。想像していた形とは違うものでしたが、少しでも岩泉町の方のお役に立つことができたのであれば幸いです。

現地に入ってから数日して被災現場を視察することができました。小本地区は、町に重機も入り始め、被災した住宅の解体や仮設住宅の設営も進んでいることを確認できました。実際に被災された方々は大変だったかと思いますが、岩泉町においては海岸部を占める面積が少なかったことから、町の機能も完全には停止してはおらず、復興へ向けて力強く歩みだしているようでした。

しかし、視察全体を通して考えると、東洋一といわれる水門や世界一のスーパー防波堤を越えてきた波がもたらした影響は甚大であることは容易に想像ができます。その光景は震災から一か月が過ぎたにもかかわらず、視察した私たちまで恐怖や喪失感を覚えずにはいられなかったほどでした。

また、南下するとともに宮古市の広範囲にわたる被害状況や、山田町で津波後に起きた火災による被災現場が広がるのを目にしました。雑多な瓦礫の中には危険物や被災者がいるかもしれないため、民間の重機が入ることもできず、自衛隊による手作業であったため、その復旧にはかなりの時間を要することは間違いありません。

それでも私たちは避難所の方々の笑顔を見ることができ、人々の間に確かな絆を感じることもできました。被災された皆様に一日も早くこの悲しみが報われることがあるように、そして岩泉町をはじめこの震災で被災した地域の一日も早い復旧・復興を祈っております。

職員派遣隊（第4班）報告書

（派遣期間：平成23年4月14日（木）～4月21日（木））



自衛隊野営基地（岩泉町ふれあいランド H23.4.15）

【派遣職員】

- 隊長 橋本 博司（都市整備部用地課）
- 隊員 浦野 和文（保健福祉部健康課）
- 隊員 岡崎 茂樹（市民部産業活性化室）
- 隊員 安原 伸一（子ども家庭部子ども育成課）

4月13日（水）

13：00～ 市長応接室において辞令交付

13：30～ 本庁舎西側駐車場にて昭島市医師会から岩泉町へ、医師の往診用車両の寄贈に伴う伝達式。



市長と太田医師会会長

4月14日（木）

7：51 昭島市役所出発（2台）

庁用車：橋本・岡崎

寄贈車：浦野・安原

8：04 八王子インターチェンジより中央自動車道に入る。

10：15 宇都宮通過

12：10 安達太良パーキングエリアで休憩。到着後すぐに震度4の余震あり。

-東北自動車道、福島県に入ったあたりから、非常に路面の状態が悪く段差・ひび割れ及び路肩が崩壊している箇所が何箇所もあった。

また、復旧工事が行なわれており随所で車線規制している。

15：15 東北自動車道紫波パーキングエリアにて給油。

- 15:50 盛岡インターチェンジから東北自動車を下車し、一般道（国道455号線）へ。
- 18:00 岩泉役場に到着。
役場3階の総務課：災害対策本部にて三上教育長・中居総務課長へ第4班到着の報告及び翌日の往診用車両贈呈式の打合せを行った。
- 18:35 第3班との引継ぎ事務
- 20:00 引継ぎ完了後、保安事務のため浦野・龍泉洞ホテル。安原・町民会館へ行く。
【引継ぎ内容】
龍泉洞温泉ホテル 24時間体制での保安事務 橋本・浦野
町民会館 8時から3時 岡崎、3時から10時安原
避難所に避難している方々の入退室の管理、面会者への対応、支援物資の仕分け、保安業務が任務。

4月15日（金）

- 8:00 龍泉洞温泉ホテル保安事務 安原・橋本・浦野
町民会館保安事務 岡崎・安原
- 8:40 岩泉町役場にて往診用車両の贈呈式



伊達岩泉町長に手渡す

4月16日（土）

龍泉洞温泉ホテル保安業務 橋本・浦野
町民会館保安業務 岡崎・安原

10：00 《水田及び転作田の塩害対策説明会》 開催：町民会館

小本浜漁業協同組合の会議室で、東日本大震災の津波で被災した農家のための「水田などの塩害対策説明会」が行われ、50人余りの農家が参加し、宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンターの職員から今後の対策について説明を受けました。

塩害に遭ったのは水田約23万7000平方メートルと畑約2万6000平方メートル。小本川を逆流した海水が流れ込み、4センチ近い泥が堆積し、取水口が破壊されました。現在、がれきを撤去した水田には、消石灰がまかれています。



震災直後の水田の様子



塩害を受けた水田には消石灰が撒かれている。

15 : 00 《町長との意見交換会》

開催場所：町民会館

岩泉町民会館で町主催の「被災者と町長の意見交換会」が開催され、町民 160 人余りが出席し被災した小本地区の復興に係る意見を交わしました。主な意見は以下の通りである。

「堤防の嵩上げをして、小本地区に再び住めるよう整備してほしい」「町管理の小本漁港の水門を、県管理の水門と同様に安全な場所で遠隔操作できるようにしてほしい」「義援金などを早期に支給してほしい」「これからの人たちには、津波の心配のない小本に住ませたい」「小本を離れたくない。盛り土をうまくやってほしい」「今回の津波が到達しなかったレベルに再建すべきではないか」「復旧にとどまらず、道路や宅地造成など根本的な構造を見直してほしい」「今のままの地番で暮らしたい。防災施設・設備を強化してほしい」「仮設住宅で2年間過ごした後、自分の家を建てられる人がどれだけいるだろうか。補助や貸付制度の充実をお願いしたい」「子どもたちに安心して引き継げる、危険度の少ない町を造ってほしい」



町長との意見交換会の様子

4月17日（日）

龍泉洞温泉ホテル保安業務 橋本・浦野
町民会館保安業務 岡崎・安原

本日正午より、被災者を対象とした宮古港において大型客船「ふじ丸」の日帰り入浴&食事のイベントがあり、岩泉町の被災者約40名が参加した。

また、龍泉洞温泉ホテル避難所については、岩泉町以外の町や村の被災者の方々もバスで入浴しに来ている。

マッサージやお話し相手のボランティアの方も多くこられた。

龍泉洞温泉ホテルに支援物資お米300キロ・菓子パン400個搬入。



龍泉洞温泉ホテル避難所の様子



町民会館避難所の様子

4月18日（月）

龍泉洞温泉ホテル保安業務 橋本・浦野
町民会館保安業務 岡崎・安原

岩泉町では町民課内に「被災者相談所」を設置。

開設期間は4月18日から当分の間で個室を用意し、プライバシーを守るように、個室が用意されている。





4月19日（火）

岩泉町森田主事の案内により、被災地視察。



小本地区の塩害対策



現在も被害の大きさを感じ取れる小本地区



3月11日、震災当日の小本地区



ガレキ撤去後の小本地区（5月6日）



小本の堤防（高さ 13.5 メートル）



被災した家財道具等が保管されている小本小学校体育館、時計が地震発生時間：午後 2 時 46 分で停止している。



津波により住宅が破壊され、コンクリートの基礎のみが残っている、川には原型の残っていない車が多数見られた。（田老地区）



自衛隊による瓦礫撤去作業



被災した宮古市役所正面玄関（1・2階が津波により全て流された）



宮古市役所正面入口前



宮古市役所正面入口前



宮古市役所周辺の状況



大槌町役場



大槌町役場（手前は消防車や公用車）



山の上から見た大槌町全体（中央左に見えるのは大型遊覧船）



建設の進む仮設住宅（岩泉町・3箇所）に140世帯

4月20日（水）

龍泉洞温泉ホテル保安業務 橋本・浦野
町民会館保安業務 岡崎・安原

17:00 第5班岩泉役場に到着。
引継ぎ事務。

4月21日（木）

17:00 昭島市役所に帰庁。

【派遣における所感】

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、震災時は本庁舎五階にいて今までに体感したことも無い大きな揺れに、ついに関東に大地震が発生したか？と思うほどの揺れでした。テレビ報道によると震源地が関東地方ではなく東北地方であることに驚いた。昭島での大きな揺れに震源地の東北地方はどうなっているかが大変気になった。昭島市管理課では直ちに緊急パトロールに出動し、本庁舎においては職員及び来庁者への一時屋外退去命令が発令され、庁舎外に避難し、避難解除から5階に戻りテレビで災害の情報を見てみると、これが本当に今日本で起きていることなのか！思わず目を疑いたくなるような光景が画面に映し出されていた、津波により家や車、田畑を飲みこんでいく映像にしばらく声を失った。

震災後岩泉町災害対策本部から3月23日（木）に昭島市に人的な派遣要請があり、本市としてもその意向に沿うべく職員の派遣をすることになり、第4班として4月14日から8日間岩手県下閉伊郡岩泉町に災害派遣へ向かった。

岩泉町役場では、災害対策・災害復旧・被災者対応・及び通常業務を多くの職員が夜遅くまで職務に従事していた。

岩泉町の被災地である海岸沿いの小本地区においては瓦礫の撤去も終わり、仮設住宅の建設・入居が始まり新たな街づくりがスタートしようとしている。町長との意見交換会では町民の方々から様々な意見が出される中で官民一体となった復興への第1歩が歩みだされたばかりだ。

天災は予期できるものではなく、昭島市が同規模の災害を被災したらと思うと・・・、平常時からの防災計画・防災訓練等の重要性、市民・自治会・企業等との官民一体での災害対策の連携・協働の重要性を深く再認識させられました。

最後に被災して亡くなられた多くの方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を願っております。

職員派遣隊（第5班）報告書

（派遣期間：平成23年4月20日（水）～4月27日（水））



ガレキの撤去後の岩泉町小本地区集落（H23・4・25）

【派遣職員】

- 隊長 和田 規宏（環境部ごみ対策課隊長）
- 隊員 藤井 貴志（学校教育部庶務課）
- 隊員 高瀬 裕輝（水道部業務課）
- 隊員 立川 晃（水道部工務課）

4月20日(水)

- 7:50 昭島市役所を出発
八王子インターチェンジより中央自動車道に入る
- 8:29 首都高「永福」料金所を通過、ここまで渋滞なし
首都高速道路経由で東北自動車道へ入る
- 9:06 東北自動車道に入り4班橋本隊長より連絡が入り、現地の早坂峠の積雪は10cm程度で除雪済みとの情報、スタッドレスタイヤのため、問題なく走行できるとのこと。
- 10:39 栃木県的那須高原サービスエリアにて給油
これから先の福島県はノンストップで通過予定のため、ガソリンメーターが半分であったが給油を行った。
福島県の「白河」辺りから道路の損傷が酷く車が跳ね上がる話を4班の隊員から事前に情報を得ていたが我々が通るころには、だいぶ仮復旧が完了しており車が跳ね上がるような状態ではありませんでしたが、路肩や防音壁などが至る所で陥没や破損していました。又、福島県に入ると一般車両は減り災害復興支援車両や自衛隊等の車が増え、我々と並行し和歌山県警、京都府警、静岡県警の車両やバスが現地に向かっていました。
- 12:16 宮城県の菅生パーキングエリアにて昼食を済ませる。
- 14:32 盛岡南インターチェンジの16km手前にある紫波サービスエリアにて本日2回目の給油をする。
- 14:53 盛岡南インターチェンジを降り一般道路へ入る、盛岡市内は震災の被害が全く感じられず、全く普通に感じられる。
国道4号から455号に入る
途中から山肌が雪景色となるが道路は完全に除雪されておりノーマルタイヤでも走行が可能な状態である。岩洞湖を通り過ぎ、道の駅「三田貝分校」で休憩し第4班に現在地入りを連絡する。
- 16:35 岩泉町役場到着、4班の橋本隊長と岡崎隊員が出迎えてくれた。
早速、町民会館の引き継ぎのため、立川隊員が町民会館へ徒歩で向かう。
残った3人は橋本隊長の運転により龍泉洞温泉ホテルまでのコンビニエンスストア、ドラッグストア、衣料品店の場所を案内されながらホテルへと向かう。

17:30 温泉ホテル到着後、早速、現地での作業内容、食事の時間とルール、入浴のルール、部屋の使い方等の引き継ぎを行った。
本日の夜勤を担当する高瀬隊員に先に食事をすませてもらい、早速勤務に入る。
4班との引き継ぎを済ませ4班の隊員たちと和田隊員、藤井隊員と町役場に行き、中居総務課長と現在の状況の説明を受けた。

21:40 本市から派遣の森田さんと明日以降の作業内容について打合せを行う。

22:10 立川隊員が町民会館より藤井隊員の送迎でホテルに戻る



町民会館勤務の立川隊員

4月21日(木)

勤務形態	町民会館	8:00～15:00 「藤井」	15:00～22:00 「高瀬」
	温泉ホテル	8:30～17:30 「和田」「岩泉：三上」	
	温泉ホテル	17:30～ 8:30 「立川」「岩泉：山崎」	

本日の避難者数

- ・町民会館 20名
- ・泉洞温泉ホテル 150名



←4/21の朝食

7:15 和田隊長、藤井、立川隊員が朝食をすます。
立川隊員が町民会館勤務の藤井隊員を車で送りに行く

8:00 夜勤の高瀬隊員と和田隊長が勤務を交代する。岩泉町の職員も政策推進課の根木地さんから経済観光交流課の三上さんに交代する。
朝 8:30 頃までは学校に行く子供達や仕事に行く人、小本までバスで向う人たちで慌ただしくなる。

本日より日勤者と夜勤者を固定してしまうとホテルの夜勤業務にあたる高瀬隊員の負担が大きくなることから次のようなシフトローテーションを作る

町民会館 8:00～15:00①
 町民会館 15:00～22:00②
 温泉ホテル 17:30～ 8:30③ (23:00～5:00 仮眠)
 温泉ホテル 8:30～17:30④

	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)
藤井	①	③	②	①	視察日	
立川	②	③	②	①	③	視察日
高瀬	③	②	①	③	②	視察日
和田	④	④	④	④	④	視察日

11:00 群馬県警の巡回警備

14:30 立川隊員が町民会館へ高瀬隊員を送りに行き、藤井隊員と交代する。
 龍泉洞ホテルの玄関にNTTドコモより携帯電話の災害用充電器がある
 温泉ホテルの風呂は毎日男女の場所が入れ替わり、シャンプーやコンディショナー、ボディーソープ等が充実している。
 お風呂については隣である「田野畑村」の避難者も送迎バスで毎日入浴しに来ている。



災害用携帯充電器



健康ツボ教室



鍼灸マッサージ

15:10 町民会館より藤井隊員戻る

15:50 1階ロビーにて保健師による健康相談実施。

17:30 和田隊長が立川隊員に夜勤を引き継ぐ

夕方になり雨が降り出してきた

本日より「健康ツボ教室開催」と「鍼・灸師によるマッサージ」の希望者を募る。

「健康ツボ教室」4月29日(金)、4月30日(土)16:30～18:00

「マッサージ(鍼灸)ボランティア」4月29日(金)13:00～16:30

4月30日(土)9:00～12:00、13:00～16:30

5月1日(日)9:00～11:00

いずれも龍泉洞温泉ホテル「うれいらの間」で開催

4月22日(金)

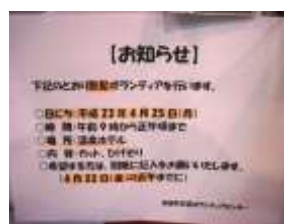
勤務形態 町民会館 8:00～15:00「高瀬」 15:00～22:00「立川」
温泉ホテル 8:30～17:30「和田」「岩泉：佐藤」
温泉ホテル 17:30～ 8:30「藤井」「岩泉：中川原」

本日の主な行事

- ・無料法律相談会 町民会館 10:30～12:00 龍泉洞温泉ホテル 13:30～15:30
- ・復興「小本」アンケート調査、仮設住宅申込、散髪ボランティアの締め切り

本日の避難者数

- ・町民会館 20名
- ・龍泉洞温泉ホテル 150名



10:00 マッサージのボランティアあり

散髪ボランティアのお知らせ

10:35 群馬県警巡回警備

公民館の箱石さんが「黛まどか」という俳句の人が4月25日(月)午前10:15～11:00に避難所を訪れるため著書20冊が寄贈された。

今まで寒さの為ホテル入口の自動ドアを手動にしていたが自動に変更する。

12:00 昼食に「あんころもち(おしろこ)」がふるまわれました。



本日、電力会社が「がれき」の撤去中に電話回線を切断してしまうトラブルが起き夕方まで固定電話やインターネットが使用できなくなる状態が発生した。

4月23日(土)

勤務形態 町民会館 8:00～15:00「立川」 15:00～22:00「藤井」
温泉ホテル 8:30～17:30「和田」「岩泉：松宮」
温泉ホテル 17:30～ 8:30「高瀬」「岩泉：八重樫」

本日の主な行事

- ・ 14:00～15:00 龍泉洞温泉ホテルロビーにて「仙台てっぺ会出前コンサート」として落語とウクレレコンサート開催
落語家：清川波之丞
ウクレレ奏者：イク
- ・ 横屋てどの蔵にて田野畑村の「吾が住み処ここより外になし」の作者「岩見ヒサ」と話す会

本日の避難者数

- ・ 町民会館 20 名
- ・ 龍泉洞温泉ホテル 150 名

9:30 雨が降り出してくる

10:00 絵本の読み聞かせ

10:40 群馬県警巡回警備



←23日の夕食

福井県の丸岡ライオンズクラブより人道支援物資として「日本一短い手紙」シリーズの書籍20冊が届く



落語



ウクレレコンサート

19:13 余震あり

4月24日(日)

勤務形態	町民会館	8:00～15:00 「藤井」	15:00～22:00 「高瀬」
	温泉ホテル	8:30～17:30 「和田」「岩泉：加藤」	
	温泉ホテル	17:30～ 8:30 「立川」「岩泉：竹花」	

本日の主な行事

- ・特になし



←24日の夕食

本日の避難者数

- ・町民会館 17名
- ・龍泉洞温泉ホテル 150名



←龍泉洞
再開通知

10:50 群馬県警巡回警備

11:20 田野畑村の避難者が送迎バスで入浴に来る。

新聞やニュースで山田町大沢の「臥竜梅（がりゅうばい）」が津波に負けずに開花したことが報道されている。

季節的なのかホテル玄関付近に「カメムシ」が多量に発生している

4月25日（月）

本日は視察日

8:30 岩泉庁用車を森田さんの運転で小本へ向かう。

「岩手アライ駐車場」に建設中の仮設住宅建設現場の視察

「岩手アライ駐車場仮設住宅規模」

1DK(6坪) 21戸 5畳 台所 風呂 トイレ

2DK(9坪) 42戸 4.5畳2室 台所 風呂 トイレ

3DK(12坪) 21戸 6畳1室 4.5畳2室 台所 風呂 トイレ

合計84戸

内装はほぼ完成し後は照明器具の取り付けやガス給湯器の配管、テレビアンテナの取り付け等が残っていそうです。

各住宅の主な装備品は「エアコン、冷蔵庫(290L)、洗濯機(7kg)、炊飯器(5.5合)、電子レンジ(18L)、テレビ(32inch)、電気ポット」などで、その他に生活必需品が無償で提供されます。

岩手アライ駐車場仮設住宅建設現場



台所



洗濯機置場(奥がトイレ)



エアコン



←風呂



室外機



玄関



給湯器



受水槽



集会施設

小本地区の様子

小本駅を過ぎた付近から津波がこの辺りまで到達した説明を受けました。ガソリンスタンドや民家の塀や壁の高さ 1.5m 付近に津波の痕跡が残されていました。港に入る手前から防風林がなぎ倒され漁船が防風林に乗りかかっている現場を見て初めて自分達が被災地にいることを実感した。

高さ 13.5mの水門の上に立ち、この水門の上を津波が越えていった痕跡を見ると水門の高さよりも津波の高さの恐怖でその場に立ってられない状態になった。小本小学校に行くと体育館内には小本地区の被災したがれきの中から集められた貴重品や写真、アルバム、仏壇等が保管されていました。

小本小学校の裏には平成 21 年 3 月に完成した津波避難階段があり、この階段のおかげで児童は全員無事に避難できたそうです。尚、小学校には今も津波到達高さの爪痕が残されています。



小本水門付近



水門より山側



水門より海側

小本支所の様子

小本小学校から目と鼻の先にある小本支所ですが我々が視察した日にはすでに改装業者が改修作業を行っていましたが、内装を剥がされた外壁にはクッキリと津波の高さを示すラインが足跡のように残されていました。



小本支所



改修工事中



改修工事中



改修工事中



改修工事中



改修工事中



改修工事中



改修工事中



改修工事中

仮設住宅建設予定地

小本から宮古へ向かう途中の「小成トンネル」付近が変更になった仮設住宅建設予定地と聞きましたが道路の反対側には津波により損壊している住宅があるので津波が来た場所に仮設住宅を建てるの？と半信半疑でしたが他の被災地では建設場所すらない状態であるので仕方がないのかもしれない。



小成仮設住宅建設予定地（5月下旬に20戸完成予定）

宮古地区の様子

宮古市田老地区に入るとまさにテレビで見る光景が広がっていました。

辺り一面廃墟となり、川に架かっていたとみられる橋は無くなり川の中にはボロボロに破壊された車があちこちに散乱していました。

宮古市内に入ると1ヵ月以上たった今でも信号機が復旧されていない箇所があり警察官の手信号による交通規制がされていました、車の窓越しに1階が津波に流された宮古市役所を見ながら山田町に向かいました。



川に散乱している車



無くなっている橋

山田町の様子

山田町は火災に被害が多くあちこちで焼け焦げた住宅跡が目立ち、いまだに焦げ臭い匂いが漂っていました、付近では自衛隊の職員が手探りで貴重品や写真、アルバムなどを探していました。海岸線を走る線路は180度、津波によりひっくり返されたままの状態になっていました。



←焼け焦げた住宅

搜索している自衛隊員→



大槌町の様子

大槌町はやっと道路のがれきが撤去されたような状態であり大槌町役場の周辺は10cm程度浸水している個所もあり住宅のがれき類はこれから手を付けるような状態でした、2階建ての大槌町役場内は全て津波に持って行かれたような状態で、水道管から水が溢れ出ていました。



全て流された大槌町役場



浸水している町内



浸水している道路

宮古漁港の様子

宮古漁港の広場はがれきの一次保管場所になっているようで、あらゆる廃棄物が山のように積まれていました。

驚いたことに壊滅的ダメージを受けているにも関わらず漁が再開されており何隻かの船から魚が水揚げされていました。恐るべき漁師パワーを見た。



廃棄物の山



積み上げられた廃棄物



壊滅的な港町

浄土ヶ浜の様子

観光名所である浄土ヶ浜も駐車場のアスファルトは半分以上津波にさらわれ、レストランも壊滅的で綺麗だと思われた浜辺は漂流物で埋め尽くされていました。

龍泉洞の様子

4月27日(水)に再開されるリニューアルした龍泉洞を龍泉洞事務所の加藤所長に案内していただきました。雪解け水が多く、地震の影響で地底湖内が白く濁ってしまいましたが新しくなったLED照明などで神秘的な洞内はとても素晴らしかったです。

龍ちゃんドーム(支援物資)の様子

龍ちゃんドーム内の支援物資は日用品から衣類、靴、ジャンパー、食料、米、ジャガイモ、玉ねぎ、水、インスタント食品とあらゆる物がそろっていましたが、やはり生鮮食品の野菜類が乏しく思えました。



龍ちゃんドームを埋め尽くす支援物資



生野菜は少量である



下着類



米



りんご



自転車



寝具類

グラウンド仮設住宅

「グラウンド仮設住宅規模」

1DK(6坪) 10戸 5畳 台所 風呂 トイレ

2DK(9坪) 20戸 4.5畳2室 台所 風呂 トイレ

3DK(12坪) 9戸 6畳1室 4.5畳2室 台所 風呂 トイレ

合計39戸

岩手アライ駐車場の仮設住宅と同じく完成間近という状態でした。



テレビアンテナ設置中



敷地整備中



敷地整備中

4月26日(火)

勤務形態 町民会館 8:00～12:30「藤井」 12:30～17:00「高瀬」
温泉ホテル 8:30～13:00「和田」「岩泉：佐藤」
温泉ホテル 13:00～17:30「立川」「岩泉：佐藤」

本日の主な行事

- ・特になし

本日の避難者数

- ・町民会館 17名
- ・龍泉洞温泉ホテル 145名

本日は夜勤業務が無いため日勤のみとなったため日勤をそれぞれ分担し、空き時間を利用して最終班である我々で部屋の片づけ等を行った。

今日ホテルに届いた支援物資は「ねぎ、大根、人参、バナナ、牛乳」の生鮮食品が届けられた。

午後に岩泉町内のガソリンスタンドで給油する。

明日の朝、役場に挨拶をして帰庁する予定であったが都合により本日の夕方に「中居総務課長」に挨拶を済ませる。

4月27日(水)

- 7:30 龍泉洞温泉ホテルを出発する。
- 9:30 東北自動車道「盛岡南」インターチェンジに入る。
- 11:45 菅生パーキングエリアで昼食をとる。
これより先の福島県はノンストップで通過する。
- 14:00 那須高原サービスエリアで最後の給油を済ませる。
- 16:14 中央自動車道「三鷹料金所」を通過。
- 16:45 昭島市役所へ無事に帰庁。

【派遣における所感】

私たち5班4名は東北地方にはほとんど行った経験が無く、岩泉町についても、予備知識が無いまま救援隊派遣という重要な任務に出発することになりました。そういう点で本当に我々が力になれるのか、いったい何ができるのかとても現地へ向かう車中は皆不安でした。しかし、避難所にいる方々は、私たちにとっても明るく接していただき多くの被災者の話を聞く機会があり、私たちの方が元気をもらうことが多々ありました。そのひとつに龍泉洞温泉ホテルでの対応時に、避難者である老人の方から我々救援隊に対し「それぞれ仕事があるにもかかわらず一週間にもわたり私たちの為に応援に来て下さって申し訳ない」と頭を下げられ胸が締め付けられる思いになりました。また、避難している女性の方々は朝早くから昼食の「おにぎり」を作る作業を毎日こなし、みんなで助け合いながら生きていく力強さに感動を覚えました。一方では、「これからどこに住めば良いのか、津波で浸水してしまった所に再び住めるのかとても不安でならない」と悩む方や、二世帯の家では「両親は元の場所に戻りたいと言うが、子供達の将来を考えると元の場所に住むには恐怖感があり心配でならない」と、震災から一ヶ月間は家族でも話し合いをすると喧嘩になってしまうという話を聞きました。家族同士でもめてしまうような問題に、国、県、町、住民が復興にむけてどのように再建していくのかこれからの復興対策については慎重かつ迅速に解決していかなければならないと思いました。そういった話を聞いた後に実際に視察で津波による被災地を目の当たりにし、津波の本当の恐ろしさを知り、やはり何らかの対策をしなければ同じ場所には住めないと実感しました。できることなら、津波による被災地は住居地域とせず、安全な暮らしができるように国や行政が力を発揮する必要があると思います。いまだに行方不明者が何千人といて、がれきや廃棄物の処理に何十年とかかるといわれ、元の場所に再建できない方々がいる中で何不自由なく普通に暮らせることのありがたさを感じさせられました。たった8日間の救援活動ではありましたが逆に色々なことを勉強させていただいたことに感謝したい気持ちでいっぱいです。仮設住宅に移ってからが本当の復興への第一歩ではありますが必ず復興して、すばらしい東北となることを信じ被災された方々の一日も早い復興を願います。まだまだ長い道のりではありますが救援要請があればいつでも力になりたいと私たちは思っています。

東北地方太平洋沖地震に伴う
岩手県岩泉町への職員派遣報告書

平成 23 年 7 月 発行

発行 東京都昭島市

編集 総務部防災課

〒196-8511

東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号

電話 042-544-5111



本市職員が、両自治体のイメージキャラクターが握手することにより、3.11 によって更なる友好の絆を深めていくことを願ってデザインをしたものであります。